

会議議事録（要旨）

会議の名称	平成30年度 第6回鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画 作成委員会
開催日時	平成31年1月29日（火）10:00～12:00
開催場所	鳥取市役所駅南庁舎 地下第5会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	岩城委員長、竹森委員、岸本委員、山本委員、原田委員
事務局職員氏名	中島福祉部長、梶課長、岸本主幹（以上、鳥取市福祉部地域福祉課）、 鹿田次長、田中次長兼総務企画課長、相見地域福祉課長（以上、鳥取市 社会福祉協議会事務局）
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>（1）市民政策コメントの結果について</p> <p>（2）鳥取市地域福祉推進計画の原案について</p> <p>（3）平成31年度の進行管理（案）について</p> <p>（4）その他</p> <p>4 閉 会</p>
配付資料	<p>資料1 「鳥取市地域福祉推進計画（第2次鳥取市地域福祉計画・第 4次鳥取市地域福祉活動計画）（案）」市民政策コメント の意見及び意見に対する市の考え方</p> <p>資料2 鳥取市地域福祉推進計画（第2次鳥取市地域福祉計画・第4 次鳥取市地域福祉活動計画）-案-</p> <p>資料3 鳥取市地域福祉推進計画 進行管理（2019年度）（案）</p> <p>その他 参考資料（避難行動要支援者支援制度、支え愛マップ）、次 第、委員名簿、座席表</p>
その他	関係課出席

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・挨拶 ・委員長欠席のため、副委員長が議事進行を行います。 ・出席者の確認
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・議事（１）市民政策コメントの結果について、説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料１意見１説明
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や質問等あれば伺いたい。
M委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意見１に対する市の考え方、下から５行目にある「活用はできないと考えます。」について。平常時は確かにそうだが、緊急時は共有してもよいわけなので、「『災害発生時や緊急時を除いて』活用はできないと考えます。」と丁寧に書いた方がよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのように捕捉します。 ・資料１意見２－１説明
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や質問等あれば伺いたい。
I委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この委員会では社会福祉法に基づく計画を作るので、それと違う前提で委員会としての意見をまとめることはできないということについては、そうだと思う。 ・修正を望むわけではないが、出された意見の一部は共有できる。「自助・互助・共助・公助」の考え方が出てきた背景や社会保障制度審議会、税と社会保障の一体改革等の改革等の流れから見ると、公助が厳しい中で社会保障等の制度をどうまかなうべきかの議論が盛んになり、自助や共助に移ってきている。財政・税金をどう使うのか、どう集めるのかという議論もある。社会保障制度自身が厳しくなっている。消費税の話も出てきているが、それが社会福祉、社会保障に実際に使われているかという点には疑義がある。意見としては共有できる部分もある。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見として捉える。自助・互助・共助・公助のうち、公助は行政のサービス、手助けになる。地域社会においては自助・互助・共助が中心になってくる。公助は、今後変わってくる可能性があるのかなと思われる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料１意見２－２、２－３、２－４、２－５説明
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や質問等あれば伺いたい。

議事内容（要旨）	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2－5（2）の回答案を庁内の関係課で検討しましたが、「押し付けられるように感じます。」をどう捉えるか、結論が出ていません。住民の役割を記載した市の計画は、知っている範囲ではこれまでにありませんでした。また、地域福祉活動について住民の周知が足りない部分がある中で、こういった計画を見たときのギャップを感じるのではないかと考えています。関係課との検討では、この記載について「方向性」という言葉が適切なのか、社会福祉協議会の役割の中で民間の役割というような、見せ方として社会福祉協議会の役割を強めた方がよいのか、文末が言い切りの形となっているので緩めた方がよいのか、色々と出ました。皆さんからの意見を聞いて、考えたいと思っています。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民への押し付け感に対する回答がもう少しじっくりこないということだ。思いや回答等あれば伺いたい。
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉は皆のものだと思っている。行政がやるだけでなく、住民が参画してもらって感じてもらう、自分たちの地域は自分たちで作っていくのが基本だと思う。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民が行政の計画として読んだら、違和感を持つのは当然だと思う。この計画が、行政計画と民間の計画である地域福祉活動計画をジョイントさせている主旨が伝わっていないのだと思うので、回答案の中にそれをもう一度整理したらと思う。「これは、行政の地域福祉計画と社会福祉協議会を中心に民間の取組をまとめた地域福祉活動計画を一体的に策定したものである」ことを強調する。 ・ 活動計画そのものが社会福祉協議会の計画ではない。そもそも社会福祉協議会が中心となって取りまとめるが、地域の各種団体、住民がそれぞれどういう活動をやっていくかをデザインしたものを紙に落としたものという思いがある。「活動計画そのものが社会福祉協議会の計画ではない」ことも情報として入れておいた方がよい。 ・ その上で「この計画は両者の役割分担を明確にしながら、2つの計画をつなぎ合わせたものだ」と強調しておいた方がよい。主旨が明確になっていないことが誤解を生んでいると思う。
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の時代、地域福祉は行政だけではできない。実際には、民間がそれぞれの役割を果たしていかないとできないと思う。民間の「方向性」そのものを削除して、行政と社会福祉協議会の役割という形でどうかという話にはならない。「方向性」という言葉のニュアンスが、差し出がましく受け取っているのではないかと。M委員の言うように、「押し付けるのではなく、それぞれの役割を果たして作っていかないと、地域福祉は前進できない」ことがわかるように書くとよい。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間の方向性や役割に関しては、委員会でもかなり時間をかけて検討している。「行政や事務局の意見だけでなく、委員会を通して住民や専門家の意見を十分踏まえた上で作成されている」ことも入れておいた方がよい。

議事内容（要旨）	
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他にあれば伺いたい。
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉計画は行政だけでなく、地域の住民参画がないと計画にならないと思う。押し付けと取る人もいるが、計画策定後は地域学習に生かしたり、地域が実際に活用できるものにしていかないといけない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性について。他の自治体では、はっきりと「民間の役割」と書いているところもありますが、鳥取市としてはそう書くのはきついなと感じ、目指す方向だという意味合いで「方向性」としました。これ以上の言葉が考えられないので、「方向性」のままで出したいと思います。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆それでよいようなので、それでお願いしたい。 ・続いて説明を願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 意見 2－6 説明
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題について、事務局は的確に回答していると思うがどうか。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6（1）は、「住民に丸投げ」と強い口調で危機感を述べている。昨今の状況を見るとそう見られてもおかしくはないので、こういう言われ方をするのだと思う。しかしこの計画は住民に丸投げすることを旨としているのではなく、行政ができないようなことを住民にどうやって気付いてもらい、参画してもらい解決していくかだ。特に孤立している人や制度の狭間にいる人を行政で見つけるのはなかなか難しい。行政としてはアウトリーチの基盤を作ったり、できるだけ身近な所に相談窓口やソーシャルワーカーを置くことはできるが、そういう人を発見できるのは地域しかない。そのために、住民に一定の活動を推進してもらおうと同時に、推進していくための基盤整備は、行政の責任と主導によることを盛り込んでいるはずだ。 ・「この計画は、行政の役割と民間の役割を明確に区別しながら、行政の役割を明確にしている」ことを丁寧に書いた方がよい。公的責任を曖昧にするのではなく、むしろそういう危惧があるからこそ、行政と民間を分けて、行政をしっかりと書くよう私もこの計画を作っている。計画の中でも財政的な支援、拠点づくり等行政としては突っ込んだ内容が記載されていると理解している。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「我が事・丸ごと地域福祉」を、地域に丸投げという捉え方をしているのかもしれない。回答ではそうではないこと、受け止めていくという答えになると思う。言葉の捉え方だと思う。 ・意見に対する回答については、一部考えるということではよいか。 ・続いて、議事（2）鳥取市地域福祉推進計画の原案について、説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 説明
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や意見等あれば伺いたい。

議事内容（要旨）	
C 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉相談センターがよく出てくるが、来年度以降役割がはっきりするの かを感じる。 ・ P 46 の【重点取組 3】包括支援体制の構築にある、計画を進めていく上で エンジンとなる「地域福祉相談センター、地域包括支援センター、人権福祉 センター、子育て世代包括支援センター、パーソナルサポートセンター等」、 行政の団体がきちんと連携を果たしていくのか。モデル地区を選定するに当 たって、そこをどういう風に検討するか、委員会を設けていくのか等の実施 体制が心配だ。その動きが見えてくると、住民も丸投げだと感じないで済 む。後ろ盾がきちんとあり、自分たちもできる役割を持つといった明確な関 係ができてくれば、安心して取り組める。 ・計画にたくさん挙がっている「地域のネットワークづくり」を懸念している。 仕方がないのかもしれないが、ニーズや困り感がある人が、地域の資源をカ タログ的に見て、「これを使えばよい」「これを紹介すればよい」「これを つなげばよい」で終わってしまう。そこからどう課題を解決するか、単にカ タログにあるサービスにつなげるのではなく、地区の課題として考えるかに 進展してほしいと思う。 ・最近、デイサービスを利用している人がインフルエンザで行けなくなったが、 翌日介護する人がおらず、誰かサービスに行ってくれないかとなった。たっ た 1 日のことなので、訪問介護を併用するわけにはいかないの、有償サー ビスで行ってくれないかと頼まれた。感染するかもしれない所へ誰かに行っ てもらうのは気が引けたので、私が行くことにした。そのときに、私がやっ ているサービスはカタログの一部だと感じた。有償サービスだとして 600 円か 700 円で代わりにやったとしても、といってもお金をもらうことはでき ないので無償ですることになるが、1 回限りの役割をお金に代えて担うこと への分業感がある。人を支えるというのは、そういうものではないと感じる。 ・相談支援で終わっていたら、結局カタログから選び出してつなげるしかでき ない。相談支援と密着した直接支援のサービスをいかに作って組み上げてい くのが、皆が理解するネットワークじゃないかと思う。ネットワークとい うとカタログ的だが、そういうことが求められているのではないことを考え てもらいたいと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そこをどうにかしていかなければならないと思いますが、今のところ、行政 の制度的には手が届かないところがあります。しっかりと連携が取れていな い所もあるので、まずはイメージ図にあるように連携を取りながら、対応を 具体的にどうしていくか、から議論になると思っています。まず、専門機関 と各地域の連携を進めたいと考えています。

議事内容（要旨）	
K 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・連携やネットワークをいかに作っていくかが課題だと思う。地域の中で、見える形のネットワークができ、連携が保てるようになればよいと思う。つなげていくという点では、コーディネーターのような舵を切る人が地域の中で育っていかないと、内部で連携は進まない。「これは社会福祉協議会の仕事だ」「これは包括支援センターの仕事だ」と、逆に連携を壊す形にならないようにしたい。 ・ネットワークを本当に築けるのかが大事だ。モデル事業も含めて、行政、社会福祉協議会、民間の医師会やまちづくり協議会・・・どこが事務局を持ち、中心となってやっていくのかも今後検討していく課題だと思う。やりながら考えないといけない問題もあると感じる。計画だけに終わらないよう、しっかりとやらないといけない。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にあれば伺いたい。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P46～47の図、特に【重点取組2】【重点取組3】は、市民に伝わらない。見て一番コアとなる情報が飛び込んでこない。 ・【重点取組2】「福祉学習のプラットフォーム」が一体何なのか、「・ともにつくる・ともに学ぶ・ともに実践する」とあるが、今までとどう違ってくるのかが伝わってこない。プラットフォームの最大のポイントは、学校は学校、地域は地域等と別々に学びをやっていたものを共通のプラットフォームを作って、互いに力を合わせて学び合っていこうというもの。当事者団体も、これまでは地域の団体としての活動に終始していたが、地域共生社会の理念と照らし合わせれば、サービスの受け手であると同時に担い手にもなっていく。そう考えると、当事者団体も福祉学習の担い手として子どもたちの前に立って先生の役割ができたりする。また子どもたちは地域に出て行って、高齢者のサロンで一緒に交流しながら、そこに来ている人たちの生活課題を学んでいく。そういった主旨が伝わってこないはず。当事者が集まって、プラットフォームを通じて互いのメリットやニーズがどのように生まれるのかを強調してほしい。この図では伝わらない。

議事内容（要旨）	
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・【重点取組 3】は【重点取組 1】と絡めているが、最大のポイントは包括的支援体制。地域の中で困難な事例や孤立した事例、住民だけでは解決できない課題を住民が発見してから対応し、この事例や課題は制度の狭間の問題で、何らかの仕組みづくりが必要だということを庁内ネットワークでプロジェクト化していく。そういった流れが見えてこないといけない。国が示した図を P11 に入れている。これを鳥取市に焼き直した場合に、こうなるよというのが、【重点取組 3】包括的支援体制の構築を説明するものになる。そうすると、大事なことは住民の生活課題を地区を単位としたネットワークの相談窓口を介して情報が集まり、その情報が次にどこへ行くのか、そして最終的にプロジェクトとして、どういう風に仕組みづくりに落ちていくのかの説明ができてきていることだ。しかしこれでは全く理解できない。地区の相談窓口と地域福祉相談センター以下の窓口がどのような形で連携するのかの部分が大事なところだ。 ・八頭町、倉吉市で地域福祉推進計画を進めているが、地区から上がってきた情報を住民と専門職と一緒に協議する場を、包括的支援体制の中に明記している。八頭町は「共生型ケア会議」と命名。社会福祉協議会の総合相談窓口に入ったん地区から情報が入ってきて、CSW がアウトリーチをし、「共生型ケア会議」を開催。必要に応じて包括的支援体制、CSW が様々な専門職をコーディネートしていく流れを明示している。その中で対応できないものは、全市レベルでのネットワークに情報を上げ、プロジェクト会議を通じて制度化、仕組みづくりに働きかけていく流れにしている。この一連の流れこそが包括的支援体制だ。そこがこの図では見えない。何がコアなのか説明できるような図に直してもらいたい。 ・【重点取組 1】は、各種団体の協力のもとで作られるのはよいが、拠点がどこなのかが大事な情報だ。これからは地区の公民館を基本的な拠点として活動していくことを明示した方がよい。 ・それぞれの重点課題が明確に伝わる図をお願いしたい。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか難しい課題だと思う。地域で実状が異なり、それぞれの地域で考えていかないといけない問題だと思う。画だけで終わらず、機能しないといけない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・【重点取組 3】の包括的支援体制の構築について。図式化するのが難しいところがあり、考えた結果このような図になっています。具体的な流れは M 委員の意見になると思いますが、それを限られたスペースで表示するのが難しいと考えています。

議事内容（要旨）	
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的支援体制のところでの問題点は、住民と専門職が協議する場が明記されていないことだ。計画の骨子を考えていくとき、コーディネーターや相談員がいる地域の相談窓口で地域から様々な情報が寄せられる、その情報をどういう風に解決に持っていくのかを議論したと思う。八頭町が示した方向性として、CSWを中心に「共生型ケア会議」を行っていくことも議論したはずだ。それこそが包括的支援体制を作っていくコア中のコアなのに、ないことが問題だ。CSWが中心になってその人の包括的支援体制を作っていくとき、様々なネットワークを駆使して、多様な専門職のコーディネイト及び住民と一緒にどう支援するのかを地域の中に入って協議していく仕組みを位置付けてほしいと強く思う。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確認したい。課題に対して地域でのネットワーク、地域でのケア会議・ケース会議を行う。この人を中心に困っている課題をキャッチして、専門職や住民を巻き込んで、どのようにフォローしていくかのケア会議が必要ということか。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特にごみ屋敷や公園の中は、現状の制度では十分対応しきれない問題が出てくるのが想定されている。それらはまさに地域でそれぞれの役割を検討して、ケースバイケースで支援の体制を作っていないといけない。その話し合いや調整の場が絶対に必要だ。それを図の中に位置付けなければいけないし、その会を何と呼ぶのかを明確にしておいた方がよい。八頭町の場合は「共生型ケア会議」として、CSWが開く権限を持つ位置付けとしている。そこで解決できない課題は、全市的なネットワークに上げてプロジェクト会議を開く流れを作っている。一つひとつの課題をどういう風に最終的に解決に持っていくかの流れが大事だ。それを行うための包括的支援体制だということが伝わるようになってほしい。

議事内容（要旨）

N 委員

- ・ P37 第4章 本市の現状等から見る地域福祉の課題は当たっている。（1）の最後に「様々な媒体を活用した情報発信が求められます。」とあるが、今までの広報の考え方が通用しない。今の社会をどのような気持ちで暮らしている住民が多いかという、非正規やアルバイト掛け持ち等の人もいて、労働条件や格差が広がり、半分諦めたようになっている。今はしがみつかない生き方をしようとしている人が多いような気がする。しがみついているのは、スマートフォンとゲーム。そこに生活の楽しみを覚えて、それ以上のことはあまり考えたくない、無気力化という状態が多くなっているような気がする。考える力が非常に落ちてきている。たくさん考えて生活を一段上、二段上にしようという思考形態、思考知識が欠けてきている。一方で、P37にもあるように、比較的高齢またはその職に関して知識を持っている人は考える力と基盤を持ちながら、前頭前野を活発化させて生きている。生活を大きくして、基盤を安定させて大人になる人たちが考える力、知識がないのは、生活が落ち込んでいるからだ。歯を食いしばっていく時代は終わり、平等社会から多様化社会になったために、格差が諦め感を醸成しているように捉えている。
- ・ P47 の【重点取組2】の福祉学習のプラットフォーム「・ともにつくる・ともに学ぶ・ともに実践する」は惹かれるが、今そういうことがどういう風に行われるかという感覚の中で捉えられているのかと思う。色々な講演会等に行くが、そのとき、その場、そのグループの中で終わってしまい、次に展開する制度がない。「ともに学ぶ」ことは大事だが、一方で知識がなければ考える元がないので、次の階段に上れない。広い横のステップにつかまることができない。とりあえず「ともに学ぶ」ことを強化する制度が求められていると思う。
- ・ P37 の「様々な媒体を活用した情報発信が求められます。」は、国語的には間違っていないが、誰が困っている人を見つけて知識を身に付けてもらうか、鳥取市の次の世代の基礎となる人間を築くかを考えると、民間にも広がっていくポイント制度のような、何かつながっていくような形にしていきたい。
- ・ 専門家には特殊な考え方と言われたが、誰が考えて生活を向上していくかを真剣に考えていかないと、落ちていく一方だ。コンビニエンスストアで健康に悪いものを食べてばかりいる人は落ちていくし、飯やみそ汁を食べない人は確実に落ちていく、弱体化する。肉体が弱体化すれば、全てが落ちていくことは明白なので、制度の中でポイント制に取り組んでもらいたい。次の計画までに若い人たちの知識や考える力をポイント制のようなものを使って広めてもらいたい。

議事内容（要旨）	
I 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 46～47 は、P 60～61 を図にしたという関係性だと思う。P 60 の最初の 2 行はワンストップサービスの考え方、そこから行政、民間、社会福祉協会の「常設型の場」があって、「CSW」があって「コーディネーター」があると書いてある。この関係が図に表現されていないという意味ならば、表現の仕方の問題だし、図はそこまで踏み込んでいないと言うなら、委員会で出された意見を鳥取市で受け止めて、再度委員会を開くべきだ。そこを整理しないといけない。 ・ P 46～47 の図を見ると、包括的支援体制がお互いに押し付け合う関係に見えなくもない。意見の整理の仕方を検討してはどうか。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図にすることは難しいということだった。地域での相談に対する専門職や住民サイドで話ができるような、コア会議というものを取り入れることについて、イメージ図を修正することに意見はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ I 委員の意見にもあったように、P 46～47 は P 60～61 を図式化のイメージでしたが、不十分な点があったと思います。見直して修正したいと思います。委員長と副委員長の協議で決めていきたいと思いますが、どうですか。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局の提案についてはどうか。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容は固まっており、どう表現するかなので、確認を取って念押しをする必要はない。委員長と副委員長、私で最終確認することで大丈夫だと思う。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ではこの 3 人と事務局で再確認し、他の委員には修正した文書を送ることでよいか。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の現状を話したい。P 47 に福祉学習のプラットフォームがあるが、地域としては災害時要支援制度の共同作業、地域における学校づくりをやっており、ネットワークづくりも少しずつできつつある。計画を見ていると、難しく無理なものもたくさんある。各地域にあったプラットフォームを作り、地域を作る大切さを感じている。理想的に全てはできない。どのようなモデルができるかはわからないが、鳥取市には地域性があり、既にできている所もあれば手を付けていない所もある。現状を考えながら、地域に合った推進計画が進行すればよい。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ P 11 には 2 つの資料が 1 ページに入っているので、字が小さく読みにくい。1 ページに一つがよい。 ・ P 9 で社会福祉法第 4 条を入れていることはよいが、昨年 4 月から第 2 項が加えられている。これが計画に大きな影響を与えているので、第 2 項も入れてもらいたい。

議事内容（要旨）	
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章では様々なデータを入れているが、大きな課題である認知症と孤立化の問題がない。P23～24の高齢者の状況に認知症のデータがあった方がよい。この課題は地域で受け止めていかないといけないことを示す大事なデータだ。次に高齢者といえば社会参加、つきあい、孤立がキーワード。高齢者の孤立化を示すつきあいの状況や会話の状況、社会参加の状況のデータも必要だ。 ・P24～25に障がい者と高齢者の成年後見制度の申立て状況がそれぞれ出ている。成年後見制度が求められる背景の説明を入れ、一つにまとめた方が読みやすい。 ・P27～29では地域の状況のデータが入っているが、地域のつながりが弱まっている状況を示す必要があるのにない。老人クラブや障がい者組織が減少していることも入れてもらいたい。地域の現状が新しいネットワークづくりにつながっているはずなので、そこを説明する統計資料は載せておいた方がよい。 ・P30 社会福祉協議会の活動状況がある一方で、地域福祉の活動の現状に関するデータはない。サロン等社会福祉協議会及び地域福祉活動の現状を示すデータを出し、地域の課題が増加していることを考えると活動を盛り上げていかないといけないという結論になる。後々の分析にもつながる。課題を説明し得る統計を追加してもらいたい。 ・P33 虐待のデータの表し方について。児童、高齢者、障がい者のデータの示し方がバラバラなので、統一した見せ方にしてもらいたい。また、ひきこもりのデータの所には、ひきこもりの定義を載せた方がよい。定義がまちまちなので、鳥取市の定義を入れた方がよい。 ・P35 犯罪の状況について。これをどう計画の中に受け止める必要があるのかの説明がないため、違和感がある。地域と連携した防犯や再犯防止をやるべきだという話になると思うので、再犯防止に向けた取組や地域の防犯活動のデータがあった方がよい。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局に検討してもらいたいと思うがどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・気がつかない点もありました。データを調べて加えたいと思います。見せ方も合わせて気を付けたいと思います。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にあれば伺いたい。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した計画書はどここの範囲まで配付するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・計画本編をどこまで配付するかはまだ検討していませんが、厚いものなので主だった所に配り、ホームページで見られる形になると思います。市報5月か6月では特集を組みたいと考えています。また概要版の配付はなるべくしたいと考えています。

議事内容（要旨）	
B 委員	・全部は読みこなせないので、配付してどの程度見てもらえるかと思う。
金谷副委員長	・他になければ、議事（3）平成 31 年度の進行管理（案）について、説明願いたい。
事務局	・資料 3 説明
金谷副委員長	・意見や質問等あれば伺いたい。
N 委員	・地域における福祉活動の推進・支援に先進取組地区の調査とあるが、これまでやってきたのか。
事務局	・業務ごとには進めていますが、この計画のイメージでの調査は行っていないので、改めて調査を考えています。
N 委員	・民生委員をしているが、色々な事例を知ることは重要な要素になる。事例を民生委員の勉強会等にも出してもらうことは可能か。
事務局	・民生委員・児童委員協議会と調整し、要望があれば説明できるようにしたいと思います。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・重点課題を中心に進行管理をしていくことはよい。 ・いきなり 4 月から「福祉学習のプラットフォーム」のモデル地区の選定や包括的支援体制の調査・検討となっているが、あまり急がない方がよい。まず計画を庁内、そして庁外の関係機関、団体、住民にきちんと伝える必要がある。キーパーソンになる人への研修を行うと同時に、事務局もイメージを作っていく、働きかけながらモデル地区を考えていく、施策のアイデアを練っていかないといけない。まずはきちんと住民、各種関係機関、団体、庁内のネットワークに働きかけ、計画の主旨内容を伝えることから入った方がよい。 ・できれば概要版を研修の材料にしてもらいたい。概要版を作成したら、委員会を再度開いて、審議してはどうか。
金谷副委員長	・事務局としてはどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・どう周知していくかは大事だと思っています。いつどのタイミングで説明していくかは協議しているので、調整しながら説明したいと思います。 ・概要版について。現在年 1 回のスケジュールで考えていたので、概要版を審議する委員会を考えていませんでした。年 2 回という話もありましたが、進捗状況を途中でというのは難しいと思われ、年 1 回で想定しています。再度開くことは考えていません。
金谷副委員長	・経費的な問題があるのだと思うが、事務局としては想定していないようだ。
M 委員	・委員が一度も見ないまま概要版を公表する流れが気になる。
事務局	・概要版の案を配り、意見をもらってから作成したいと思います。

議事内容（要旨）	
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・案を委員に配付し、意見を聞いて修正するということだがどうか。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくともそれはお願いしたい。この計画は行政計画の側面だけでなく、皆で一緒に作っていくもので、進行管理もそれぞれが責任を持ってやり、実現に力を尽くしていくことが前提だ。年に1回進行管理の委員会を開いて、報告だけでは弱い。これを推進するに当たり、この段階で委員に手伝ってもらいたい、説明会に入ってもらいたい。自費にはなるが参考になる視察をするので参加しませんかということがあってもよい。皆で一緒に盛り上げていって作る、委員が地域に出て行ってそのエッセンスを伝えていくことをやる必要がある。頭を切り替えてもらいたい。皆で役割分担しながら、進めていく主旨を委員の中でもできたらよい。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・進行管理、地元説明会の段階でも策定委員会が関わりを持っていきたいとのことだった。全員が一つの会場に出ていなくても、各地域に行くという内容もある。委員は策定の段階から関わっているので、十分理解していると思うので、説明会等にも参画してもらいたいという要望だ。 ・事務局としてはどうか。自費で視察という意見もあったが、声を掛け合いながら、委員に協力を要請するのがよいと思う。委員の地域で開かれる説明会等には参加の案内をしてはどうかと思う。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この計画がどういう風に地域に落ちていくのかは、自分で言った以上責任を持っている。できるところがあれば協力したい。どう作業が進んで行くのか、随時情報提供して、都合が付けば参加するといえる状況にしてもらいたい。都合が付かず参加できなくても、どのように動いているかが伝わる形にしてもらえるとありがたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがたい意見です。会として集まるのは難しいのですが、情報を随時報告し、委員の意見を聞きに行ったりして、一緒に進めたいと思います。協力をお願いしたいと思います。
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・議事（4）その他について、何かあれば説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の予定説明
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉部長挨拶
金谷副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会